



UCS Server Configuration Utility のユーザ インターフェイスについて

UCS-SCU GUI は、オペレーティング システムのインストール、RAID 設定、ファームウェアの更新などのタスクを実行できる Web ベースの管理インターフェイスです。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ライセンス契約書」(P.3-1)
- 「UCS-SCU GUI ホーム ページ」(P.3-1)

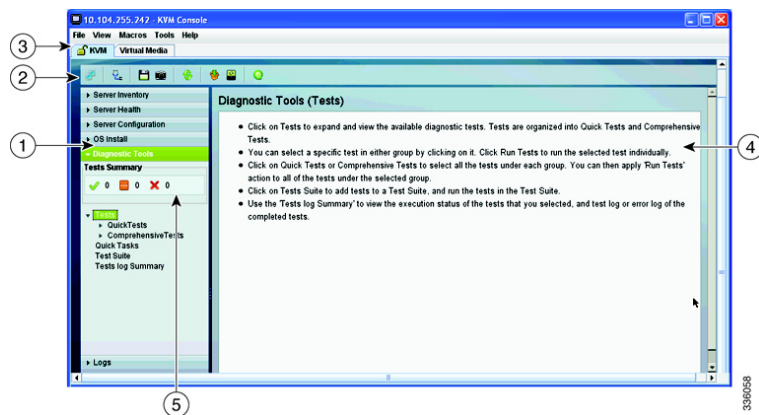
ライセンス契約書

UCS-SCU が起動したら、最初のインターフェイスは、エンド ユーザ ライセンス契約です。[I Accept] を選択して [Next] をクリックし、このライセンスに同意します。

UCS-SCU GUI ホーム ページ

図 3-1 に UCS-SCU GUI および GUI のさまざまな要素を示し、表 3-1 に各要素の説明を示します。

図 3-1 UCS-SCU GUI



1	[Navigation] ペイン
2	ツールバー
3	タブ
4	[Content] ペイン
5	[Tests Summary] ペイン

表 3-1 UCS-SCU GUI の要素

要素	説明
[Navigation] ペイン	UCS-SCU のユーザ インターフェイスの左側に表示されます。すべてのナビゲーション ペインの要素の説明については、表 3-2 を参照してください。
ツールバー	左上隅に表示され、一連のアイコンがあります。すべてのツールバー アイコンの説明については、表 3-3 を参照してください。
タブ	UCS-SCU の次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • [KVM] : KVM コンソールを開始するには、このタブを使用します。 • [Virtual Media] : 仮想メディアにアクセスするには、このタブを使用します。
Help	表示されたページの状況依存ヘルプを表示するアプリケーションのウィンドウを開きます。
[Content] ペイン	GUI の右側に表示されます。[Navigation] ペインで選択したタブに応じて、異なるページがコンテンツ ペインに表示されます。
[Tests Summary] ペイン	合格したテストの詳細、キュー内のテスト、テストの失敗が表示されます。診断ツールが選択されている場合にだけ表示されます。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「[Navigation] ペイン」 (P.3-3)
- 「[Toolbar] ペイン」 (P.3-4)

[Navigation] ペイン

表 3-2 で、[Navigation] ペインの要素について説明します。

表 3-2 [Navigation] ペインの要素

要素	説明
Server Inventory	<p>サーバの情報およびインベントリを表示します。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Server Information • Inventory <p>サーバ インベントリの詳細については、第 4 章「サーバ インベントリの表示」を参照してください。</p>
Server Health	<p>CPU、メモリ、電源、ファン、ストレージ、PCI デバイス、BIOS、および CIMC などのサーバのサブシステムの状態を表示します。</p> <p>サーバヘルスの詳細については、第 5 章「サーバヘルスの表示」を参照してください。</p>
Server Configuration	<p>BIOS のブート順を設定し、サーバの接続されたハード ドライブの RAID ボリュームを設定します。</p> <p>次のページへのリンクがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブート順の設定 • RAID 設定 <p>サーバ設定の詳細については、第 8 章「ブート順と RAID レベルの設定」を参照してください。</p>
OS Install	<p>完全な無人モードで RHEL、SLES、Windows オペレーティング システムをインストールします。すべてのオンボード コンポーネントの最新のドライバが、オペレーティング システムのインストール時に Tools and Drivers CD またはその他のサポートされている場所から追加されます。</p> <p>OS インストールの詳細については、第 6 章「オペレーティング システムのインストール」を参照してください。</p>

表 3-2 [Navigation] ペインの要素 (続き)

要素	説明
Diagnostic Tools	サーバ障害を検出するために、さまざまな種類の診断テストを実行できます。 診断ツールの詳細については、第 7 章「診断ツール」を参照してください。
Logs	サーバのシステム ログおよびシステム イベント ログが表示されます。 次のページへのリンクがあります。 <ul style="list-style-type: none"> System Logs System Event Log ログの詳細については、第 9 章「ログの表示」を参照してください。

[Toolbar] ペイン

表 3-3 で、特定のタスクを実行するために使用できるすべての UCS-SCU アイコンについて説明します。

表 3-3 ツールバーの要素









ツールバー アイコン	名前	機能
	Network Configuration	IP アドレス、DNS、サブネット マスク、および Cisco.com の資格情報を設定します。
	Probe Server	ヘルス チェックを実行します。
	Save Logs	USB にログを保存します。
	Server Snapshot	サーバのその時点のインベントリを取得できます。
	Refresh	サポートされている場合、コンテンツ領域を更新します。

表 3-3 ツールバーの要素 (続き)

ツールバー アイコン	名前	機能
	Update	UCS-SCU、OS のドライバ、および Host Upgrade Utility の最新バージョンをダウンロードできます。
	HyperVisor Sync	同期外 RAID 1 パーティション内のディスクに書き込まれたデータを交換ディスクと同期できます。
	Reboot	サーバを再起動します。

ここでは、ツールバーの要素について詳細に説明します。

- 「ネットワークの設定」(P.3-5)
- 「サーバヘルス チェックの実行」(P.3-6)
- 「ログの保存」(P.3-6)
- 「サーバスナップショットの使用」(P.3-6)
- 「Cisco Flexible Flash へのイメージの更新」(P.3-8)
- 「ハイパーバイザパーティションの同期」(P.3-10)
- 「サーバのリブート」(P.3-10)

ネットワークの設定

ネットワークを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 ツールバーの [Network Configuration] ボタンをクリックします。

[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 [Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
 - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
 - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
 - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
 - (任意) [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。



(注) cisco.com からソフトウェアおよびドライバをダウンロードする場合は、手順 b. に進みます。

- b. [Direct Connection to internet] または [Manual Proxy] を選択します。[Manual Proxy] を選択した場合は、次の手順を実行します。
- [HTTP Proxy Server URL] フィールドに、プロキシ サーバの URL を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [Port] フィールドにポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。デフォルトでは 8080 です。
 - [Proxy Server UserName] フィールドに、プロキシ サーバのユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [Proxy Server Password] フィールドに、プロキシ サーバのパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

ステップ 3 設定を保存するには、[Configure] をクリックします。

ネットワーク設定は 1 度だけ実行するプロセスであり、ネットワークを設定しない場合、次の手順の実行中に設定するように求められます。

- Cisco Flexible Flash にイメージを更新するとき。（「[Cisco Flexible Flash へのイメージの更新](#)」(P.3-8) を参照）。
- オペレーティングシステムのインストール時に、ネットワーク共有または [cisco.com](#) からドライバをダウンロードするとき。（「[インストール ドライバ](#)」(P.6-8) を参照）。

サーバヘルスチェックの実行

Probe Server 機能では、サーバサブシステムのヘルスチェックを実行できます。[Probe Server] アイコンをクリックすると、サーバヘルスチェックが開始されます。

ヘルスチェックの結果を表示するには、ナビゲーションペインの [Server Health] タブをクリックします。

[Server Health] タブの詳細については、[第 5 章「サーバヘルスの表示」](#)を参照してください。

ログの保存

Save Logs 機能を使用してログファイルを保存できます。Save Logs を使用する前に、ログファイルを保存するための USB フラッシュドライブまたは vMedia を挿入する必要があります。

サーバスナップショットの使用

UCS SCU のユーザインターフェイスで Server Snapshot 機能を使用して、サーバのその時点のインベントリを取得できます。この機能では、特定の期間内のサーバのインベントリまたはコンポーネントを比較することができます。サーバのスナップショットを開始する前に、サーバに USB フラッシュドライブが接続されていることを確認します。フラッシュドライブが使用できないと、サーバスナップショットで作成されたログファイルは保存されません。

サーバスナップショットを開始すると、UCS SCU はサーバコンポーネントに関する情報を取得し、サーバの状態を判断するために一連のクイックテストを実行します。サーバスナップショットを開始すると、プロセッサ、メモリ、ディスク、キャッシュ、ネットワークインタフェーステスト、QPI リンクおよびトラフィック、LSI バッテリバックアップおよび RAID アダプタテスト、チップセットテストなどの一連のクイックテストがサーバ上で実行されます。

サーバスナップショット処理の完了時間は、インストールされているメモリ、物理ディスクの数とサイズ、ネットワーク インタフェースの数などのサーバ設定によって異なります。この処理は、30 ~ 45 分で完了する場合も、数時間かかる場合もあります。

サーバスナップショット処理が完了すると、ログ ファイルが指定した USB フラッシュ ドライブに保存されます。ワードパッドなどの任意のエディタでこのログ ファイルを開くことができます。期間ごとのサーバ インベントリを比較できるように、これらのログ ファイルを特定の場所に保管することをお勧めします。複数のログ ファイルがある場合、サーバ インベントリの違いを表示するために、インターネットから入手した比較ツールを使用できます。

サーバのスナップショットを取得するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** サーバに、または vMedia を介して USB フラッシュ ドライブを接続します。
- このフラッシュ ドライブがないと、サーバスナップショット ログ ファイルを保存できません。フラッシュ ドライブにログ ファイルを保存するための十分なスペースがあることを確認してください。
- ステップ 2** UCS SCU インターフェイスの [Server Snapshot] アイコンをクリックします。
- USB フラッシュ ドライブの装着を求めるダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [Yes] をクリックして続行します。
- ダイアログボックスで、ログ ファイルの保存先となる USB フラッシュ ドライブを選択するよう求められます。
- ステップ 4** ドロップダウン メニューから、USB フラッシュ ドライブを選択し、[Save] をクリックします。
- サーバスナップショット処理が開始されます。この処理には、最大 20 ~ 30 分かかります。サーバスナップショット処理の進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。この処理中は、サーバでその他のタスクを実行できません。処理中にいつでも、ダイアログボックスの [Cancel] をクリックして、サーバのスナップショット処理をキャンセルできます。



(注) サーバスナップショット処理中、KVM 接続が終了しても、サーバスナップショット処理は中止されません。KVM コンソールに再度ログインすると、サーバのスナップショット処理がまだ実行中または実行完了したことがわかります。ただし USB フラッシュ ドライブが vMedia 経由で接続されている場合に KVM 接続が終了すると、USB フラッシュ ドライブへの接続が失われるので、サーバスナップショット処理が停止します。

- ステップ 5** スナップショット処理が完了すると、サーバスナップショット処理が完了したことを示すダイアログボックス メッセージが表示されます [OK] をクリックします。
- ログ ファイルは、USB フラッシュ ドライブに保存されます。ログ ファイルはテキスト ファイルであり、サーバ名とともに保存され、サーバスナップショットが取得された日付が含まれます。たとえば、UCSC_C260-BASE-2646_FCH1234345_06_08_2011 は 2001 年 8 月 6 日に UCS C-260 サーバ用に取得されたサーバスナップショットのログ ファイル名です。
- ステップ 6** 任意のエディタでこのファイルを開きます。



(注) 一定の期間にわたり同じサーバのインベントリ情報を比較するため、比較のために常に使用できるように、これらのログ ファイルをアーカイブすることをお勧めします

サーバのクイック テストの実行中に、サーバのスナップショット機能は、サーバ コンポーネントがテストに合格したか失敗したかのみを判断できます。コンポーネントがクイック テストに合格しない理由は特定できません。サーバ スナップショット処理のログ ファイルの表示中に、サーバ コンポーネントがクイック テストに合格しなかったことに気づいた場合は、[Diagnostics Tools] の下にあるクイック テスト ログを確認してください。



(注) 診断ツールの詳細については、第 7 章「診断ツール」を参照してください。

サーバ スナップショット処理のログ ファイルには次の情報が含まれます。

- Chassis Summary
- BaseBoard Summary
- CIMC Summary
- Processor Summary
- Memory Summary
- Storage Summary
- PCI Adapter Summary
- Power Supply Summary
- Server diagnostics Quick Test Results
- Server Probe Data

Cisco Flexible Flash へのイメージの更新

UCS-SCU、オペレーティング システムのドライバ、および Host Upgrade Utility (HUU) の最新バージョンをダウンロードするために UCS-SCU GUI を使用できます。これらのイメージは、それぞれのパーティション上のシステムの SD カードに書き込むことができます。

UCS-SCU GUI を使用して Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ツールバーの [Update] アイコンをクリックします。
- [Cisco Flex Flash Software Update] ダイアログボックスが表示され、パーティションのリストを表示します。
- ステップ 2** リストの [Cisco Server Configuration Utility] を選択します。
- 次のいずれかの方法を使用して SD カードにイメージを更新できます。
- 「[Cisco.com からの更新](#)」(P.3-9)
 - 「[ネットワークからの更新](#)」(P.3-9)
- ステップ 3** [Apply] をクリックして、イメージを適用します。
- [Cisco Flex Flash Software Update] ダイアログボックスが表示され、テーブルがイメージのバージョンで更新されます。
- ステップ 4** 残りのパーティションに対してステップ 1 からステップ 4 を繰り返します。
-

Cisco.com からの更新

cisco.com からの Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Cisco.com] をクリックします。
- ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Select Updates] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、**ステップ 2**に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、**ステップ 3**に進みます。
- ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定方法の詳細については、「[ネットワークの設定](#)」(P.3-5)を参照してください。
 - [User Name] フィールドに、cisco.com のユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
 - [Password] フィールドに、cisco.com のパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。
- ステップ 3** 表示される [Select Updates] ダイアログボックスで、ISO イメージの必要なバージョンを選択します。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
-

ネットワークからの更新

ネットワークから Cisco Flexible Flash にイメージを更新するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [From Network] をクリックします。
- ネットワークまたはユーザ資格情報が設定されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。設定されている場合、[Network Location] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、**ステップ 2**に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、**ステップ 3**に進みます。
- ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワーク設定の詳細については、「[ネットワークの設定](#)」(P.3-5)を参照してください。
- ステップ 3** 表示された [Network Location] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [User Name] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのログイン名を入力します。
 - [Password] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのパスワードを入力します。
 - [Network Location] フィールドに、ISO イメージ ファイルが格納されているフォルダのパス名を入力します。
 - [Connect] をクリックします。
ファイル ダイアログボックスにイメージの一覧が表示されます。
 - .iso イメージ ファイルを選択します。
 - [Open] をクリックします。
選択したファイルが [Network Location] ダイアログボックスのパッケージ名として表示されます。
 - [OK] をクリックします。
-

ハイパーバイザパーティションの同期

UCS-SCU は、Cisco FlexFlash SD カードをサポートするサーバ上で、SD カード上に RAID 1 ディスクとして設定されるハイパーバイザ仮想ディスクを同期するためのオプションを提供します。この機能は、Cisco FlexFlash SD カードが両方のスロットに装着されている場合にだけ使用できます。

UCS-SCU は、サーバ上の SD カードの有無を検出します。

一方のメンバの SD カード スロットが破損している場合に、このオプションを使用して RAID-1 仮想ディスクの 2 つのメンバ間でハイパーバイザ データを同期します。この同期を開始できるのは、2 枚のカードが検出され、RAID-1 が正常でない（一方のメンバが破損）と判断された場合だけです。

ハイパーバイザ仮想ディスクを同期するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ツールバーの [Hypervisor Sync] アイコンをクリックします。
ダイアログボックスで、ハイパーバイザ RAID を同期することを確認するよう求められます。
- ステップ 2** [Yes] をクリックします。
同期が完了すると、処理の完了を示すダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
ツールバーの [Hypervisor Sync] アイコンはグレーアウトされます。
-

サーバのリブート

サーバをリブートするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ツールバーの [Reboot] アイコンをクリックします。
[Reboot] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** [Yes] をクリックしてリブートします。
サーバがリブートし、UCS-SCU GUI が再表示されます。
-